

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第1回朝霞市シティ・プロモーション委員会	
開催日時	令和7年8月19日（火） 午後1時30分から午後3時40分まで	
開催場所	朝霞市役所別館5階大会議室（奥）	
出席者の職・氏名	委員5人（亀岡会長、吉田副会長、木本委員、齋藤委員、村中委員 ※会長、副会長、五十音順） 事務局5人（又賀市長公室長、多度津シティ・プロモーション課長、竹本同課課長補佐兼シティ・プロモーション係長、佐藤同課同係主査、笈篠同課同係主事）	
欠席者の職・氏名	委員2名（大下委員、田中委員）	
議題	（1）令和6年度シティ・プロモーション活動報告について （2）令和7年度シティ・プロモーション活動予定について （3）シティ・プロモーションアンケートについて （4）その他	
会議資料	①次第 ②名簿 ③資料1 令和6年度活動報告及び令和7年度活動予定について ④資料2 シティ・プロモーションアンケートについて ⑤シティ・プロモーション冊子 ⑥実は朝霞って子育てが楽しいまち！チラシ ⑦ねんりんピック企画「ぼぼぬりえ」コンテスト用紙 ⑧映画「平場の月」チラシ	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
傍聴者の数	0人	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎ 開会

- ・あいさつ（又賀市長公室長）
- ・出席委員及び事務局の自己紹介
- ・出席委員数報告
- ・会議公開及び傍聴希望者の確認
- ・配付資料の確認

◎議事（１）令和６年度シティ・プロモーション活動報告について

◎議事（２）令和７年度シティ・プロモーション活動予定について

議事（１）と議事（２）は関連性がありますので一括して説明します。

○事務局

【１】朝霞市民プロモーションミーティングに関する報告

- ・令和６年度において、計５回のミーティングを開催。
- ・朝霞市には自然が豊かで住みやすい環境、かつまだ知られていない魅力が多くあり、その魅力を感じる世代は、子育て中のファミリー層ではないかという意見から、主に子育て世帯へのアプローチをする方向性で活動。「実は朝霞って子育てが楽しいまち！」フライヤーが成果品であり、「のびのび子育てができる場所」「子連れに優しいお店」「交通の利便性」の三つのテーマに沿ってオススメポイント等を写真、動画、ＱＲコードを用いて紹介。
- ・フライヤー内、「こどもの遊び場チーム」と「交通利便性チーム」は動画を作成し、現在市のＹｏｕｔｕｂｅアカウントにて配信中。（動画放映）
- ・印刷部数は５，０００部。メインターゲットを「子育て世帯の転入者」とし、転入セットへの同封、市ＨＰ、Ｉｎｓｔａｇｒａｍでの発信、駅ラックへの配架等を実施。
- ・令和７年度の活動では、「朝霞の日常の魅力」をテーマとした冊子の作成を予定。６月２７日（金）開催の第１回ミーティングでは、メンバーのスマホの中から「いいね」と感じた写真の共有や、魅力の深掘りについてアイデア出しを行い、次回のミーティングでは、ターゲットの設定や具体的なテーマ設定を行う予定。

【２】シティ・プロモーション庁内推進委員会に関する報告

- ・令和６年度の活動では、シティ・セールス朝霞ブランドの浸透を目的としたショート動画の制作を目指し、「旧高橋家住宅」「彩夏祭」「公園通りとシンボルロード」「まちなかベンチ」の絵コンテを作成。
- ・令和７年度の活動では、「動画チーム」と「写真チーム」に分かれて活動することとし、「動画チーム」においては、現在「旧高橋家住宅」絵コンテの動画化に向けて、撮影・編集を行っている。（現状の動画放映）
- ・「写真チーム」では、ブランド全体の発信を行うため、各ブランドをパソコン壁紙及び、写真を活用したスライドショー動画の作成を行う予定。（縦型（スマホ用）も検討）

【３】シティ・プロモーション課の主な取組に関する報告

- ・令和６年度の実績として、シティ・セールスあさかブランドのプロモーションを目的とした「ＭＵＳＡＳＨＩＮＯ ＦＲＯＮＴ ＡＳＡＫＡ」冊子を作成。発行部数は１万部。

- ・朝霞市キャラクター「ぽぽたん」LINEスタンプ販売実績として、第5弾の販売が開始されたことにより、令和6年度では653個の売上があった。
- ・各種メディアの活用実績として、映画「平場の月」の撮影に関し、市を挙げて撮影協力し、産業文化センター前の通り、浜崎黒目橋、南割公園（通称ひこうき公園）等にて撮影が行われた。
- ・民間企業との協働実績として、775ライブラリーFM地域コミュニティラジオ局と連携し、番組名「ラジオdeむさしのフロントあさか」にて、市政情報発信やゲスト出演依頼等、番組サポーターとして活動。また、令和7年3月から新たな番組として、障害、保健、福祉、介護、成年後見等に特化した番組「ツナグワラジオ」が始まり、ラジオを活用した保健福祉分野の情報発信を開始。
- ・シティ・プロモーションに関するアンケートの実施では、毎年1回「市政モニターアンケート」を平成29年度から実施。また、令和7年度開始の「こどもモニターアンケート」にて、小学4年生から18歳を対象にしたシティ・プロモーションアンケートを実施。このアンケートの回答を基に、オリジナルグッズの作成に関する意見の反映を行った。
- ・令和7年度の取組として、各種メディアの活用では、「ぽぽたんX」やInstagram等の各種SNSを用いて情報発信を行う。なお、Instagramにおいて、昨年度同時期で1.5倍ほどの投稿数となっている。また、積極的に出向くことで、取材の強化を図る予定である。
- ・映画「平場の月」のプロモーションについて、市民の皆さまが朝霞市に対する愛着の醸成につながるよう、「彩夏祭」では、中央公民館に市のPRブースを出展し、ポスターやチラシの掲示、PR動画の放映等を行った。
- ・あさか学習お届け講座では、市内小学校からの依頼を承っている。各校、行政との様々な取組として総合的な学習で活用している。
- ・民間企業との連携では、JR東日本主催の「駅からハイキング」を市と協働で行うことが決定。令和8年3月24～26日（3日間）、北朝霞駅を出発し、「桜咲く黒目川と歴史散策コース」を設け、朝霞の魅力を感じていただく内容を予定している。
- ・新規の取組として、庁内各課と連携した三つの事業を予定している。

一つ目は「ねんりんピック彩の国さいたま2026」開催に伴う、長寿はつらつ課（ねんりんピック室）との連携事業である。朝霞市は空手道の会場になっており、今年度9月28日に、リハーサル大会、来年度11月に本大会を予定しており、朝霞市へ訪れる全国からの方に対しプロモーション（おもてなし）を企画している。

二つ目は環境推進課の「環境かるた」に関する連携事業である。環境推進課が作成した「環境かるた」の効果的な活用の一つとして、シティ・プロモーション課がハブとなり、小学校との連携を実現。「環境かるた」を体育館に広げ、子どもたちと一緒に「ぽぽたん」も参加し、楽しみながら環境の学習を実施した。

三つ目は産業振興課と朝霞第三小学校との連携である。主に農業で活用するドローンを開発する地元企業の協力を得て、農業の未来について学んだ児童に対し、学校でのドローンのデモンストレーションなどの出張授業を行う予定で、シティ・プロモーション課がハブとなり実現に向け動いている状況である。

- ・令和9年3月15日に市制施行60周年に向けた取組に関して、どのような事業展開が必要であるかを検討中である。

以下、事務局からの説明に関する委員からのコメント及び質問等

○亀岡会長

市民プロモーションミーティングの取組は、非常に意義のあるものと感じています。子育てに関する動画については、自然な雰囲気がよく表現されており、子どもたちの楽し

そんな表情も含め、非常に良い仕上がりになっていると思います。シティ・プロモーション委員会が設置される以前は、市民が主体的にまちの魅力を語り、表現して情報発信する取組はほとんど見られなかったと思います。現在は、当時と比べて非常に活動的になり、取組がきちんと形になってることが素晴らしいと感じます。今回の取組で終わらせることなく、これからも市民の方々が子育ての中心となり、アイデアや、思いを出し合える場の提供ができるよう、市としてそのような仕組みを支えていただきたいと思います。また、アウトプットのあり方について、事務局からは転入者に渡す資料の一つとして活用するとの説明がありました。せっかく良い素材があるのでですから市内に転入されてきた方がこの取組を知り、朝霞での子育てを楽しみ、コミュニティに入りやすくなるように促すことが非常に重要であると思います。また、市外から朝霞に来てもらうためにも、この魅力を広く発信していく必要があると思います。その点について、事務局としてどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

○事務局

転入セットは、窓口で転入なさった方に、ゴミの分別の冊子などと一緒にこのチラシを入れています。他には、不動産業者、市内の駅ラック、各公共施設、また、通常配布できるようなところは全て配布をしています。

また、その他、SNSの発信を強化しておりますが、まだまだフォロワー数としては少ない状況でありますので、伸ばしていきたいと考えています。なお、紙媒体でもしっかりコンタクトポイントを増やしていくことも平行して行っていかなければと思っています。

○木本委員

シティ・プロモーション方針に基づき、様々なことを進めていることがよく分かりました。ただ、進めていることはこういった場で聞くと分かりますが、その情報が中々届いていないのではと感じています。情報発信について、各会議体のトーンが違うと思いますがどのようにお考えでしょうか。

○事務局

シティ・プロモーション委員会、朝霞市民プロモーションミーティング、シティ・プロモーション庁内推進委員会の三つの会議体の統一性はある程度は必要と考えています。

○村中委員

Instagramでの情報発信について、課題になっているところだと、今ハッシュタグがもう不要なものになってきており、ハッシュタグがついてたら逆に伸びないといった情報も出ています。Instagramの活用方法についてどのように対応していくかということも課題でもあると思います。

恐らく、市民の方は市民目線での発信というのがすごく気になっていると実感しています。

○吉田副会長

交通利便性チームの内容について、例えばですが「高尾山に行ってきました」といったような具体的な例を挙げてみても良いかと思います。

そういうものをレポートとして入れていくと、その場所との位置関係が想像しやすくなるのではないかと思います。

○亀岡会長

市民がやりたいことをどのように支えていくかという点については、以前、プロモーション方針を策定した際にもシティ・プロモーション課のあり方に関する議論の中で話題にしていますが、いかに市民が楽しみながらまちの魅力を発信できるかが重要です。従来は、利便性が高く自然が豊かなといった情報発信に留まっていたましたが、現在はより具体的な内容へ進化しており素晴らしいと感じます。また、庁内推進委員会の活動に関連して、動画制作自体が目的化してしまうことは避けるべきです。動画制作を通じて庁内推進

員がシティ・プロモーションの目的をどのように理解し活性化させたかという点も成果として示すことが重要だと思います。

○木本委員

庁内の職員がシティ・プロモーションについて、活動していることが良いと思います。この職員はどのような職員ですか。

○事務局

シティ・セールス朝霞ブランドの各ブランドに関わる事業担当課が必ずメンバーに入っています。その他、ブランドに関連付く部署や発信への助言を求めたい職員等を考慮し、若手10名の委員で構成しております。

○亀岡会長

各ブランドの壁紙やスライドショーについて、総合窓口課ロビーのモニターで放映することですが、編集等の作業は職員の方が手掛けるのでしょうか。専門家が関わらないのであれば、職員が手作りで制作している旨を明示した方が良いのではないのでしょうか。

○事務局

旧高橋家住宅の動画につきましては、こちらで編集作業し動画配信という形で考えています。市役所総合窓口課のモニターでは1コマ15秒枠となり、そこに7つのブランドの写真を用いたスライドショー動画を作成・放映したいと考えています。

○事務局

市民プロモーションミーティングは、市民が主体的に活動し、発信を行っているので、素敵なお店や素敵な活動を、より個別具体的に紹介することが可能です。このような市民目線での取材・発信を上手く活用し、朝霞の魅力がふるさと納税につながるようなものが見つかることを期待しながら進めているところです。

○村中委員

「シティ・プロモーション最近よく頑張ってるよね」という声が聞こえている。ふるさと納税についてですが、先日、何人かの人が納税の仕方について意見交換している場に出くわした。ふるさと納税は基本的に寄付だと思うので、自分の育ったまちに納税をしたい。できれば、朝霞市に使いたいと思っています。

○亀岡会長

シティ・プロモーションとふるさと納税を関連付けることは、その対象者の設定が難しいと感じています。市民を対象とするよりも、元市民が転出後に、まちへの愛着や関係性を深める行為として捉えるのが適切ではないかと思います。朝霞ブランドに限らず、まちの魅力を積極的に発信することで、市外に転出した人々との関係性を深め、その手段としてふるさと納税につなげる流れをつくるのではないのでしょうか。

このような議論を曖昧にすると、返礼品の検討だけで終わってしまうおそれがあるため、ターゲットや納税者の心像を動かす方法などを具体的に検討する必要があると思います。

◎議事（3）シティ・プロモーションアンケートについて

○事務局

朝霞市シティ・プロモーション戦略のイメージでは三つのセグメント、市内、市外、行政としており、日常の価値の発見・創造し、これを共有します。その日常の価値やまちの魅力を市内から市外へ伝える。いわゆる市民等が自らの声で情報発信していきます。行政としては、その行動を支えるための仕組みづくりをしていきます。この繰り返しですが、市外からの交流人口、関係人口、転入を招き、市内では、これまで、一步踏み出

したいがそのきっかけを探している方も行事等への参加・参画が生まれることを戦略のイメージとしてプロモーションを推進しています。最終的には、「選ばれるまち×愛着の醸成＝定住の促進となるものとシティ・プロモーション方針ではうたっています。

副題の「あなたにとって最高の居場所 朝霞」は、人それぞれ、生活や家族形態、感情、価値観など十人十色ですが、その周りにある、自然環境、交通便利、防犯、子育て制度などの施策が充実している環境にあることが大前提であって、いきいきと活気のあるまちが土台としてあなたにとっての最高の日常となるものと考え、その場所が朝霞であってほしいという願いから副題としました。

令和4年度は、「朝霞市シティ・プロモーション方針」のキックオフ年であり、市への愛着など、市民が居住地にどれほどの愛着を感じているかなどについて現状値（基礎値）を図るためにアンケート調査を実施しました。アンケート実施から約2年半から3年たち、この間プロモーションを推進してきた中で、どのような変化が市民等に生じているかを測定するため、今年度、同等規模でのアンケート調査を予定しています。朝霞市内では、年中行事が盛んに行われ、行政始動ではなく、市民主体の彩夏祭、アサカストリートテラスなど、年々規模が大きくなるなど市民参加が増えており、地域の担い手として活動する人が多くいます。

朝霞市を選んでくれた方、地域で活躍されている方、一步前進したい方などが求めていることを汲み取り、行動に移すことのできる環境の整備、仕組みづくりをつくっていくことが必要だと考えています。

アンケートの設問意図について、「魅力発信力」として、市の魅力が市民にどれだけ伝わっているか、「情報収集・発信意欲」として、市民自らが市の魅力を収集し、自らが情報発信しようとしているか、「参加意欲」として、情報の収集から、自ら地域イベント等への参加する意欲があるか、「企画・行動力」として参加・参画することができた後、自ら企画・運営、朝霞の魅力を広げようとする意欲があるかといった観点で設問しており、これを数値化、よりの確なシティ・プロモーションを推進していくための資料とします。

市から発信される情報は、子育てや防災、福祉、イベントなどといった安全、安心、快適といった基礎生活情報の告知や啓発が中心であるが、その情報が必ずしも市民目線を反映したものとなっていないこともあります。そこで、暮らしのトピックを捉え、分かりやすく、タイムリーに編集された、魅力的な情報が届く環境を整備することで、一步踏み出したい方が地域へ参加し、コミュニティが形成され、その後推奨意欲が高まることが想定されます。そのサイクルが継続することで、愛着醸成による定住へとつながっていくと考えられるため、こうした仮説に基づくアンケートとしています。

設問項目として、令和4年度に実施した19の設問をベースに、今回は9つ新規設問を取り入れる予定です。

新設した項目について、問9では、どれだけ市に愛着を感じているか。この質問は、毎年実施している市政モニターアンケートにもあります。（定住の促進）

問10では、朝霞での暮らしを市外の方にどれくらいお勧めできますかという設問です。（市内から市外へ情報が伝わっていくか）

問11では、情報が飛び交っている背景の中、どの媒体を活用して情報を得ているのか。（媒体を把握し、情報発信する）

問20、21では、これまで参加したことがあるイベント、そして今後参加したいイベント等について（何に関心があるのか）

問22では、市で行っているプロモーションの認知度を聞きます。（課題）

問23、24では、朝霞市民プロモーションミーティングの存在とその活動の成果物を見たことがあるかを聞いています。（市民視点）

問28では、令和9年3月15日に市制施行60周年を迎えますが、市民の視点から、60周年で何を求めているのかを聞きたいと考えています。

電子申請アンケートを作成して二次元コードを付し回答してもらいます。なお、紙媒体での回答も可とします。回答期間を約1か月程度見込んでいます。

アンケートの案内は、広報あさか、ホームページ、各種SNSでの配信、小中学校へチラシ配布、庁内職員宛メール、民間企業への依頼、市内各駅ラックに配架、市内公共施設へのポスター掲示などで、調査を行う予定です。

○亀岡会長

事務局からアンケートについて説明がありましたが、朝霞市の人口を考えると、2,000件程度の回答数は必要ではないかと考えます。

○事務局

一般的なアンケートの回収率は、2,000から3,000件というようなところを目標にはしておりますが、今回は1,184件の回答がありましたので、それを超えるようなイメージでいきたいと考えています。

◎議事（4）その他

○事務局

その他について、令和7年度のシティプロモーション課の活動でもご紹介させていただきましたが、まず一点目、ねりんピックについてお伝えします。朝霞市が空手道の会場となり、大会運営とは別にシティ・プロモーション課では、おもてなし事業を担当しております。市内外から来る参加者や関係者の方々、観戦しに来る方々に対して朝霞市を知ってもらえるようシティ・プロモーションの腕の見せ所かなというふうには感じております。今年度はリハーサル大会ということなので、基本的には大会の運営に集中していくようなところですが、私どもとしてはやはり来年の本大会に向けて意識醸成を図り、大会を盛り上げたいので、塗り絵コンテストを企画しました。原画は埼玉県立朝霞高校美術部、朝霞西高校美術部の皆さんにご協力いただき、計13の絵柄となります。子どもや高齢者の方への配布や、データでの配布をしながら募集しているところでございます。内容は、未就学児からシニアの部まで部門を分けて表彰し、このコンテストの表彰された方には、「ぼぼたん」オリジナルグッズをプレゼントします。続々とねりんピック室の方に塗り絵が集まっているような状況でございます。

もう一つ、映画「平場の月」のプロモーションについてのご紹介でございます。昨年度撮影協力をした後に、今年度では、プロモーションというところで彩夏祭で市PRブースを出したりっていうのは行いましたけれども、このブースを出したときのこの特別映像というものが、T O H Oマーケティング会社のご協力で、朝霞市向けにキャストのお二方からメッセージをいただいておりますのでそれをご紹介させていただきます。中学時代の初恋同士が大人になって恋に落ちる50世代のラブストーリー、ぜひ映画館で、このような45秒間の動画ですが、これを市民ホールで字幕も付け、放映させてもらったらと思います。あと市民ホール横、ご覧になっていたらすみませんが正面入口のところに「平場の月」のポスターと合わせていつもの朝霞をスクリーンでというようなキャッチフレーズを付けて掲示してございますのでよければご覧いただければと思います。

今年度、第2回の委員会ですが、今のところ予定ですと、年明け2月に開催予定としております。

それでは、以上をもちまして令和7年度第1回朝霞市シティ・プロモーション委員会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。